

# オリンダ通信

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

第4号

共同代表：松本敏之、大倉一郎  
 事務局：横浜港南台教会 秋吉隆雄  
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29  
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616  
 郵便振替口座番号：00210-2-97571

## 一時帰国を終えて

小井沼眞樹子

待降節に入り、ここ、真夏のレシーフェでも街の界限に飾られたイルミネーションが嬉しげに、ナタール（クリスマス）が近づいていることを告げています。

私は9月18日にレシーフェを立ち、11月8日まで1ヶ月半あまり日本に滞在し、帰路ではサンパウロとベロ・オリゾンテに寄って用事をこなし、11月18日にレシーフェに戻ってきました。まる2ヶ月の一時帰国をしたわりには、あまり多くの方々にご連絡もせず、失礼してしまいましたこととお詫びいたします。

先号の通信をお届けして少し経ってから、実は、体調（心のバランス）を崩し、精神科医の薬を服用しながら帰国しました。それで、なんとか前半に定められた宣教報告と交流の仕事を終えた後は、ほとんど家族中心に過ごしました。3年ぶりの家族全員集合で、4人の孫たちの可愛らしさに慰められながら、よく話し、よく笑い、よく食べ…。楽しかったけれど、またまたぐったり。「いつも元気印」でない私の状況をこのように皆さんに正直にお伝えすることも、たぶん大切なことなのではないかと思えます。でも今はコントロールができて、疲れ過ぎないように気をつけながら普通に生活できていますから、どうぞあまりご心配なく。

皆さまのお祈りとご支援を心から感謝しています。

### ★「できること」と「できないこと」を識別する

原因は、前号でお知らせしたメニーノ（＝男の子）との共同生活のストレスであろうことは間違いなく、心身の限界に突き当たって体がSOSを発信したのでしょう。

「マキコ、やってみるか」と神様からこの子を託されたように感じていたので、少々のことでは決してあきらめない覚悟をつけていたのですが、次々に発生する問題の深刻さには頭を抱えるばかり。何度もこちらがパニックに陥ってジョアン・ペソアに電話すると、ホベルト神父がこう言ってくださいました。

「マキコ、できることとできないことを識別し、できることをしたらいいのだよ。神様はあなたにできないことまでするように望んでおられないと思う。あなたは大事な使命を負ってここにいるのだから、この問題で自分を

そこまで追い込んではいけないよ」と。イエスの声を聞いたようでした。

それでも、一度関わりを持ったメニーノの行く末を思うと簡単には手放せませんでした。イエスさまにすがりながら生活を続けているうちに、一睡もできなくなる日々が続くようになり…。カトリック大学のミゲウ神父も、私がよりよく理解し決断できるように丁寧な手紙を書いてくださり、メニーノと私を呼び出して、双方にわかるように説明して下さって、彼も私もやっと共同生活をあきらめることを受け入れたのでした。悲しく辛い決断でしたが、神様がこの子を見捨てたわけではなく、別の形できっと道が開けてくることを信じてゆだねることを学ばされました。

彼を自宅に帰してから通学のための経済的支援は続けていますが、案の定、彼の状況は一層悪い方に転じていくように見え、心配しつつ、この事態を後にして、私は今回ホベルト神父を同伴して日本へ旅立ちました。

### ★ひとつのエキュメニカル(教会一致)交流の実現

ジョアン・ペソアはレシーフェから北へ高速バスで2時間半ほど離れた都市で、そこにイエズス会員養成コースジュニオラードの一般教養課程にあたる神学院があります。

ホベルト神父は2001年からそこで教育主任を務め、02年に初めて出会って以来の友人です。日本からの訪問客があるたびノルデスチへご案内し、英語が堪能な神父の協力を得て有意義な交流を続けてきました。特にオリンダの教会へ赴任してからは、私にとってそこは魂の深呼吸をして元気を回復する大事な隠れ家となりました。



ジュニオラードにて。右から2人目がホベルト神父。

彼はいつも「私たちの家」はあなたの家です、と言って快く私を受け入れてくださいます。

さて、ホベルト神父が、ジュニオラードの仕事を2010年を最後にして、他の任地へ移動することになることを知ったのは一昨年のことでした。何か感謝の意を形に表したい、彼を日本へ招いたらどうかという願いが私の心に生まれふくらんで行きました。ほかの人たちからも同じような声があがり、昨年10月、たまたま個人的に1週間日本に滞在していたので「ラテンアメリカ・キリスト教」ネット(通称ラキネット)の世話人会に出向き、そこで正式にホベルト神父を日本へ招待することが承認されたのです。

ホベルト神父も大喜びでこの招きに応じてくださり、イエズス会の長上の許可を得てから、この旅行企画のために日本とブラジルの両側で入念に準備を重ねました。

彼の希望は、日本という異文化社会と人々との出会いと交流、(カトリック以外の)他教会とのエキュメニカルな対話、他宗教との対話という3点にありました。

他方、ラキネット側では、ホベルト神父の経験を踏まえた2つのテーマで彼に講演を依頼し、3ヶ所で実施する計画を立てました。

講演題と日時・場所は次の通りでした。

・講演Ⅰ：「キリスト教基礎共同体と解放の神学—教会の新しいあり方を求めて」

9月23日 ラキネット聖書研修会  
(明治学院大・戸塚ブラウン館)

10月1日 上智大学

・講演Ⅱ：「神学生養成と宣教—現代世界におけるイエズス会の後継者教育」

9月29日 農村伝道神学校

いずれの講演も拙い私が通訳を仰せつかり、5月頃から二人で準備を重ねました。この仕事が私個人にとっても本当に良い訓練と学びになったことは言うまでもありません。質疑応答では、私の語学力では不足でしたから、周囲の人々に助人をお願いして、英語とポ語と日本語を駆使して貴重な意見交換をすることができました。

なお、これらの講演の内容は、後日、ラキネットが冊子を発行することになっています。

問合せ先 

大久保徹夫：メールアドレス(省略)
TEL/FAX 0465-73-xxxx

他宗教との対話に関しては、横浜市鶴見区の曹洞宗総持寺で2日間修行僧と一緒に参禅を体験することができ、とても有意義だったようです。夜は指導僧の方からの質問攻めで、あまり寝る時間がなかったとか。

後半は大久保さんといっしょにホベルト神父に付き添って、京都—広島—九州(瀬高、阿蘇山、各地温泉、長

崎)の旅を楽しみました。恩師や友人がたに各地で受け入れと案内をしていただき、また、広島と長崎では、それぞれイエズス会修道院の神父様たちとの出会いと交流もあり、大変楽しく有意義でまた内容の濃い旅をすることができました。

ホベルト神父はどこへ行っても持ち前の明るさと親しみやすさで人々に好感を与え、正座して習字をならったり、お箸を上手に使うって日本食に舌つづみを打ち、温泉宿では浴衣を着るなど、終始、旅路を満喫しておられました。お世話になったすべての方々にも心より感謝いたします。

★ブラジル宣教報告会について

さて、本命の宣教報告会について述べるのが一番最後になってしまいました。

9月26日(日)横浜港南台教会で、朝の礼拝説教を「愛の神が共にいます—オランダの教会生活より」(ヨハネの手紙一 4章7—12節)と題していたしました。1年半ぶりに日本語でメッセージをしたので、自分の言葉で自由に話せるのはなんと楽でしょう!と思いました。

貧富の差の大きいブラジルにあって、経済発展から取り残されている居住区にあるアルト・ダ・ボンダーデ教会の活動、信徒たちの信仰の力と喜び、涙、愛情深さ、助け合う姿を通して、私がどのように信仰を学び、慰めと勇気を得ているかを語らせていただきました。

午後3時からの報告会では、語った言葉を映像で裏付けるときとして、沢山の写真と冬季聖書学校のDVDを見ていただき、理解を深めて頂けたのではないかと思います。次ページでその写真のいくつかをご覧ください。

★音楽献金の感謝と、献金目的の変更のお願い

アルト教会の音楽プラン実施のための献金(音楽献金)には、多くの方々から献金が寄せられ、今年一年間で100万円(2年間分)が集まりました。心から感謝申し上げます。そして、日本キリスト教協議会女性委員会からは、今年3月の世界祈祷日献金の一部11万円を日本キリスト教団の全国婦人会連合からの推薦で頂くことができ、合わせて111万円をドルに替えて(13,100ドル)持ち帰ることができました。

オランダへ戻って、教会の活動執行委員会で検討した結果、向う2年半は音楽活動資金は満たされたので、次年度の献金は、目的を変えて、教会と保育園の施設補修費、改築費などに充てたいと願っています。詳しい建設計画は次の通信でお知らせできるようにしたいと思います。この「施設献金」に引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。